



## ◇昨年の参加者感想（抜粋）

### 【A.U.(18)：新津教会】

私は今まで祖父母が被災したにも関わらず、あまり震災に対しての意識がなかったように感じます。被災しているところにどんなケアが必要だとか、いまいち、ピンッと来ていませんでした。たった一瞬の出来事でも、今も支援が必要不可欠であることは、漠然とわかっていたつもりでした。震災のことがドドドッと現実味を出して目の前に突きつけられた気がしたキャンプでした。また、雪を掘る中で、効率！しか考えがなかった私ですが、それだけが全てじゃないことを知りました。話をしているとき、穏やかな表情になって、嬉しそうにいろんなことを語る教会員の方々の姿がとても眩しく私の目にうつりました。私にとって、震災のこと、スローワークのこと、いい意味で大きな衝撃が2つあった5日間でした。



### 【M.T.(18)：栃尾教会】

今回の雪掘りキャンプに参加できてよかったと思う理由の一つに色んな先生方のお話を聞くことができたことがあります。何度も被災地に足を運んでいる方々や被災者支援センター・エマオで働かれている佐藤真史さんや柴田信也さんのお話をきくことが出来たのはとても貴重な経験でした。特に私は佐藤真史さんのお話を聞いているとき、ハッとさせられました。なぜかという、私の中で少しずつ東日本大震災の記憶が薄くなっていくことに気づかされたからです。震災から6年が経ち、テレビでは現状がほとんど放送されなくなっても放射線や仮設住宅などの問題が今もなお残されていることを再認識しました。そして3.11は過去形ではなく、現在行形なのだという真史さんの言葉を決して忘れてはいけないと思いました。そして“共に生きる”とはどういうことなのかということをお自身考え続け、その時その時にやるべきだと思ったことを行動に移していくことができる人になりたいと思いました。

### 【A.M.(25)：新潟教会】



余韻に浸っています。しかしこれは、私が現実に戻ることを拒みたくないような後ろ向きな名残惜しさではなく、この数日間で体験したこと考えたこと、かけてもらった言葉を忘れちゃだめだよ、と言い続けてくれる余韻です。今回で2度目の参加となりましたが、行かないという選択肢はなかったように思います。気持ちがこめられている本心だとしても、状況に応じた適切な、いわゆる正論だとしても、相手との関係ができていなければ、それらは届かないことがある。ある時から、どうしたら私の気持ちをわかってもらえるんだろう、あの人の言葉はあんなにパワーを持っているのに、それに比べて、同じことを伝えたいと思って言っているはずの私の言葉は全く届かない、というモヤモヤを抱えていました。心からそう思って自分の言葉として、発信しているはずなのに目の前にいる相手にはなんの意味ももたないものなのだ、と分かった瞬間から、怖くなってしまったのです。何か問題が起こったときにだけ、もっともらしい正論を振りかざしても、結局なにもできない自分の無力さががっかりして、誰かを傷つけておしまいです。大事な場面で言葉を発して、それを聞いてもらうには日頃、どれだけ丁寧に周りの人と向き合っているかが問われるのだと学びました。まだ、しばらく余韻に浸っていたいと思います。また、来年もぜひよろしくお願いします。